不適合の管理状況（2026年10月後半審議分）

2026年10月16日～2026年10月31日の間に、不適合判定検討会にて審議し、不適合と判定したもの。
なお、不適合事象は重要度に応じて「A～Dのグレード分け」を行い、管理の程度を定めている。

【Aグレード】　0　件

対象となる事象は、ありませんでした。

【Bグレード】　0　件

対象となる事象は、ありませんでした。

【Cグレード】　5　件

No	審議日	号機	プラント状態	不適合事象・処置計画
1	10月16日	2号機	運転中	原子炉浄化設備の巡視において、停止中の原子炉浄化循環ポンプのオイルフィルタ底部からわずかな潤滑油のにじみがあることを確認した。調査の結果、温度変化に伴う熱膨張および収縮の影響により、オイルフィルタ底部プラグ周辺のシール材のシール性が低下したものと推定した。 当該プラグ部を清掃し、シール処理を実施する。 （原子炉浄化設備：原子炉内を循環する冷却水から不純物を取り除き、水質を管理するための設備）
2	10月16日	共通	－	2号機タービン建物地下1階の巡視において、東側復水系配管室の扉が施錠されていないことを確認した。 当該室の扉を施錠する。
3	10月16日	2号機	運転中	可搬式窒素供給装置のコンテナ取付ボルトの間隔が耐震計算書と異なる事象の水平展開として、他の可搬式設備の調査を行ったところ、第1ベントフィルタ出口水素分析計車のコンテナ取付ボルトの間隔が耐震計算書と異なることを確認した。 現状のコンテナ取付ボルトの間隔における耐震評価を行う。また、耐震計算書の設工認図書を修正する。 （可搬式窒素供給装置：重大事故時に窒素ガスを供給するための可搬型設備）

4	10月23日	2号機	運転中	事故時格納容器内雰囲気監視設備の監視において、A系水素濃度計の指示値が上昇していることを確認した。 当該濃度計を校正する。
5	10月27日	2号機	運転中	事故時格納容器内雰囲気監視設備の定例校正において、B系の酸素濃度計および水素濃度計の指示誤差が精度外であることを確認した。 当該濃度計を校正する。

【Dグレード】　35　件

No	審議日	号機	プラント状態	不適合事象・処置計画
1	10月16日	3号機	建設中	残留熱代替除去設備のポンプ用モノレール据付工事において、モノレールサポートを溶接した埋込金物周辺のコンクリートにひび割れがあることを確認した。 当該コンクリート部を補修する。 （残留熱代替除去設備：原子炉格納容器内の温度と圧力が上昇し、既設の残留熱除去設備が使えない場合でも、原子炉格納容器内の冷却を図ることを目的とした設備）
2	10月16日	2号機	運転中	純水装置用制御空気貯槽の空気脱湿装置を切り替えたところ、切替用電磁弁本体からわずかな空気の漏えいがあることを確認した。 当該電磁弁を取り替える。 （純水装置：発電所の運転に使用する純水（水ろ過装置で製造したろ過水から不純物を除去したもの）を作る装置）
3	10月16日	共通	ー	2号機原子炉建物西側ヤードの連絡ダクト設置工事において、通路上に工具が置かれていることを確認した。 工事監督者に対し、通路上に工具を残置させないよう指導する。
4	10月16日	共通	ー	サイトバンカ建物のチェックポイントにおいて、作業員が放射線管理区域用下着（上）を着用したまま体表面モニタを通過し、管理区域から退出したことを確認した。 当該作業員、当該作業員の移動経路および当該下着の汚染検査を行う。 （サイトバンカ建物：使用済のチャンネルボックスや制御棒等の放射性固体廃棄物を貯蔵・保管するための建物） （チェックポイント：管理区域への人の出入りを管理する場所） （体表面モニタ：体の表面に放射性物質が付着していないかを検査する装置）

No	審議日	号機	プラント状態	不適合事象・処置計画
5	10月16日	共通	ー	サイトバンカ建物の排気モニタにおいて、装置の異常を知らせる警報が発報し、2系統ある排気モニタの試料採取装置のうち1系統が自動停止したことを確認した。調査の結果、自動停止した系統の冷却機内部のファンが動作不良であることを確認した。 当該冷却機を取り替える。
6	10月16日	共通	ー	1号機原子炉建物1階の仮置物品の表示張替作業において、仮置物品を覆っている不燃シートに隙間があり、物品の一部が露出していることを確認した。 当該物品を不燃シートで隙間なく養生する。
7	10月16日	2号機	運転中	廃棄物処理建物1階の硫酸注入ポンプ用電動機の点検において、回転子の軸受はめあい部の寸法が管理値を外れていることを確認した。 当該軸受はめあい部を補修する。
8	10月16日	2号機	運転中	純水タンクの水位計点検において、警報設定値の誤差が精度外であることを確認した。 当該水位計を校正する。 （純水タンク：純水装置で製造した純水を貯蔵するタンク）
9	10月16日	3号機	建設中	非常用ディーゼル発電設備の点検において、燃料配管に錆が発生していることを確認した。調査の結果、燃料配管が接続される燃料噴射弁から冷却水が漏えいし、当該冷却水が燃料配管のボルトナット接続部に滞留したことによるものと推定した。 当該燃料配管の一部を取り替える。また、燃料噴射弁の漏えい箇所を補修する。 （非常用ディーゼル発電設備：外部からの電力供給がなくなった場合に炉心を緊急冷却する設備に電力を供給するための設備） （燃料噴射弁：燃焼室に霧状の燃料油を噴射するための弁。ノズル部周辺に冷却水を循環させ冷やす構造となっている。）

No	審議日	号機	プラント状態	不適合事象・処置計画
10	10月16日	共通	ー	西側事務所の消防設備点検において、自動火災報知設備受信機の蓄電池電圧が基準値を下回っていることを確認した。 当該蓄電池を取り替える。
11	10月16日	共通	ー	大型送水ポンプ車の装備品点検後のクレーン格納作業において、作業員が意図せず旋回レバーに接触したためクレーンブームが旋回し、車両上部の赤色灯カバーに接触して破損させたことを確認した。 当該赤色灯カバーを取り替える。 （大型送水ポンプ車：重大事故等発生時に原子炉や燃料プールへ注水するための大型ポンプを搭載した車両）
12	10月20日	2号機	運転中	中央制御室において、廃棄物処理建物所内蒸気ドレン回収タンクの異常を知らせる警報が発報した。調査の結果、全2台ある廃棄物処理建物所内蒸気ドレン回収ポンプのうち1台が逆回転していたことから、同ポンプ出口逆止弁の開固着と推定した。 当該弁を点検する。 （所内蒸気ドレン回収タンク（ポンプ）：所内蒸気の凝縮水を回収するタンク（ポンプ））
13	10月20日	1号機	廃止措置中	制御室建物3階の巡視において、計算機室入口扉のドアノブを鍵を挿して開けようとしたところ、押し込まないと空回りすることを確認した。 当該扉のドアノブを補修する。
14	10月20日	共通	ー	所内ボイラー（4号）の計器点検において、ボイラー缶水用pH計の誤差が精度外であることを確認した。 当該pH計を校正する。 （所内ボイラー：空調の暖房用機器および発電所の起動・停止時に蒸気を使用する機器等へ蒸気を供給する装置） （pH計：酸性、アルカリ性の度合を示す計器）

No	審議日	号機	プラント状態	不適合事象・処置計画
15	10月23日	3号機	建設中	非常用ディーゼル発電設備の給気温度計用信号変換器の点検において、指示誤差が精度外であることを確認した。 当該信号変換器を校正する。
16	10月23日	3号機	建設中	地震観測装置の点検において、一部の地震計で観測できない状態となっていることを確認した。調査の結果、信号変換ユニットの電源部の不具合によるものと推定した。 当該信号変換ユニットを取り替える。
17	10月23日	共通	ー	2号機燃料支持金具の仕様相違に伴う解析業務において、定められた検証手順を適用せずに解析結果の検証を行っていたことを確認した。 当該解析について、解析の妥当性を確認した内容を整理した記録を作成する。 （燃料支持金具：原子炉内において燃料集合体下部を支える構造物）
18	10月23日	共通	ー	モルタル固化設備において、モルタル充填を行った廃棄体18体のうち2体について、廃棄体の上部空隙値が基準に適合しないことを確認した。 当該廃棄体を識別し、保管する。 （モルタル固化設備：配管廃材等の不燃性の放射性固体廃棄物をモルタルで固化する設備） （廃棄体：配管廃材等の不燃性の放射性廃棄物を溶融設備で溶融した物や溶融できない物を切断してドラム缶に詰め、モルタルを充填し、固化したもの）
19	10月23日	3号機	建設中	地震観測装置の点検において、収録装置のバッテリー電圧が基準値を外れていることを確認した。 当該バッテリーを取り替える。

No	審議日	号機	プラント状態	不適合事象・処置計画
20	10月27日	3号機	建設中	サービス建物の換気空調系冷凍機において、故障を知らせる警報が発報し、自動停止したことを確認した。調査の結果、当該冷凍機からの冷媒ガスの漏えいによるものと推定した。 当該冷凍機を補修する。 （サービス建物：3号機の洗濯設備やチェックポイントを設置している建物） （冷媒：冷凍機や空調機で熱を運ぶために使用する流体）
21	10月27日	共通	―	2号機原子炉建物地下1階のトーラス室において、配管に取り付けている保温材の外装板が復旧されていないことを確認した。 当該保温材の外装板を復旧する。 （トーラス：非常用炉心冷却系で使用する水を貯蔵するドーナツ状の設備）
22	10月27日	共通	―	濃縮廃液タンク用温水タンクの点検において、熱電対上部マンホール下のボルト部から温水のにじみがあり、滴下箇所の保温材が腐食していることを確認した。調査の結果、蒸発した温水がフランジ部を通過し、凝縮したことによるものと推定した。 当該フランジ部のパッキンを取り替える。
23	10月27日	共通	―	水ろ過装置の運転において、薬品注入配管が閉塞し、薬品を注入できないことを確認した。 当該配管を清掃する。 （水ろ過装置：河川から取水した水をろ過する装置）
24	10月27日	共通	―	APD（100339）の点検において、パソコンとの通信が行えないこと、読取線量当量値の誤差が精度外であることを確認した。 当該APDを使用禁止とする。 （APD：警報付ポケット線量計。被ばく線量を管理する機器）

No	審議日	号機	プラント状態	不適合事象・処置計画
25	10月27日	共通	ー	APD（100311）の点検において、読取線量当量値の誤差が精度外であることを確認した。 当該APDを使用禁止とする。
26	10月27日	共通	ー	APD（100691）の点検において、液晶画面にひび割れが発生していることを確認した。 当該APDを使用禁止とする。
27	10月27日	共通	ー	APD（101481）の点検において、警報の動作確認を実施したところ、警報が鳴らないことを確認した。 当該APDを使用禁止とする。
28	10月30日	3号機	建設中	原子炉建物の海水ドレンサンプポンプの点検において、軸、パッキンリングおよびポンプケーシングに腐食があることを確認した。また、下外管に巣穴があることを確認した。 当該部品を取り替える。 （海水ドレンサンプポンプ：熱交換器の点検等で発生した海水ドレンを移送するポンプ） （パッキンリング：軸周辺の適切なすき間を確保し、内部部品を支持・保護する部品） （ポンプケーシング：羽根車の周囲を覆うカバー） （下外管：ポンプ下部の軸などを外側から覆う筒状の部品） （巣穴：金属を鋳造する際などに内部に生じた小さな空洞（巣）が、表面に現れて穴のように見える状態）
29	10月30日	共通	ー	令和8年度第2四半期に実施された原子力規制検査において、管理区域内の区域区分変更に係る確認プロセスについて、社内規定との整合性の観点から、より明確な運用とする必要があるとの見解が示された。調査の結果、協力会社への委託時に権限や委託先の確認・承認範囲を明確に整理するべきにもかかわらず、不十分であることを確認した。 区域区分変更に係るプロセスを改善する。

No	審議日	号機	プラント状態	不適合事象・処置計画
30	10月30日	3号機	建設中	中央制御室において、通信設備の異常を知らせる警報が発報したことを確認した。調査の結果、指令電話装置の制御盤内のヒューズが切れていることを確認した。 当該ヒューズを取り替える。 （指令電話装置：発電所内の連絡に使用する通話機能を備えた放送設備）
31	10月30日	共通	ー	2号機原子炉圧力容器の超音波探傷検査（特別点検に向けたデータ採取作業）において、監視試験片支持ブラケット肉盛部の軸方向探傷データにおける形状エコーの検出位置が、図面上の位置と異なっていることを確認した。調査の結果、軸方向探傷を開始する前に必要な探触子ホルダーの回転操作を失念したものと推定した。 第19回定期事業者検査において、当該箇所の軸方向探傷を再実施する。
32	10月30日	共通	ー	雑固体廃棄物焼却設備の定量分離ダンパを閉操作したところ、当該ダンパ用電磁弁に接続している計装用空気配管のホースの亀裂部からわずかな空気の漏えいがあることを確認した。 当該ホースを取り替える。 （雑固体廃棄物焼却設備：可燃性の廃棄物を焼却する設備）
33	10月30日	2号機	運転中	原子炉浄化設備のpH計点検において、指示誤差が精度外であることを確認した。 当該pH計を校正する。
34	10月30日	共通	ー	発電所設備に使用する部品の製造メーカーへの不正アクセスにより、原子力安全には影響しない当該メーカーの部品に関する図面が外部へ漏えいしたことを確認した。 漏えいした情報の詳細および影響を確認し、必要な処置を行う。

No	審議日	号機	プラント状態	不適合事象・処置計画
35	10月30日	共通	ー	1号機タービン建物3階のブロック撤去作業において、撤去したブロックを別のブロックの上に置き、横に移動させたところ、作業員がブロックとブロックの間に右手薬指を挟み、負傷したことを確認した。 当該作業員を病院で受診させる。